

静岡大学 理学部 同窓会会報

NO.13

発行所 静岡大学理学部同窓会
静岡市大谷836
静岡大学理学部内
Tel 054-237-1111(内)
会長 赤池大樹

同窓会会員の皆様へ

副会長 竹下昭二



一九九七年(平成九年)が始まり、二十一世紀まであと四年弱を残すのみとなりました。会員の皆様も新しい世紀に向かって、地球的規模で、益々御活躍のこ



理学部同窓会の皆様方には、御健勝で、御活躍のこととお慶び申し上げます。同窓会報では初めてご挨拶をさせて頂きますが、平成八年四月から理学部の取りまとめを致すことになりました。

前号にて福島前理学部長が公表いたしましたように平成八年四月から理学部は新体制となり、新しい理工融合の理工学研究科(博士前期課程と後期課程)もスタート致しました。今後の大きな課題は、現

と思います。

会報も今回で十三号となりました。年二回発行のペースだとすると二十一世紀の最初の会報は第十七号(二〇〇一年)となります。ちなみに会報の第一号は一九八五年(昭和六十一年)八月二十日発行でした。

さて三年後は静岡大学の開学五十周年となり、大学側では記念事業を予定していると考えています。これ

に同窓会としてどのように協力するかというのを契機として、静岡大学の各学部同窓会の連絡会議の必要性が認識され始め、第一回の会議が文理・人文学部同窓会の呼び掛けで昨年十一月に開催されました。その概要を前記同窓会の愛野会長がまとめたので、会員の皆様に報告します。

第一回(仮称)静岡大学同窓会連絡会議

代科学の多様な学問分野における急速な進展に対応できる教育・研究を行なうことにより内的な充実を計る事にあります。もちろんこのためには現職職員並びに学生諸君のたゆまざる精進が求められます。

昨年度国内を駆け巡った

躍進する理学部

理学部長 太田吉彦

言葉に「メーカードラマ」があります。日進月歩で進展する科学のなかで、特に基礎科学を担当する理学部にとっても、今後の進むべき道は決して平坦ではありませんが、新しい創造性の世界を求めて頑張らなければ世の中の動きに置いていか

求められておられることと思えます。ところで、昨年十月末に静岡県立進山高等学校で行われた私の卒業研究生の教育実習研究授業に出掛けましたところ、面倒を見て頂いた福田清人・堀川裕男先生が偶然にも同じ学科の同

窓会のメンバー(昭五十三、五十九卒)であつたのです。若者の「理科離れ」が心配されている折から、このように同窓生が母校の理学部に優秀な人材を送ってくれたということは、心強さを感ずりました。全国的な輪の拡大を切に望みます。

また、同じく十月開催されました理学部講演会に、同窓会員の藤村達人博士(三井東洋科学社、昭四十七卒)が「植物のバイオテクノロジーの実用化について」と題して新しいお話を紹介されました。いずれも、躍進する理学部同窓会員の卒業後の姿を垣間見、これらの事実こそ母校と同窓生を繋ぐ大事な視点であることと痛感した次第です。開

- 一日時 十一月十六日
- 二 場所 文理・人文学部同窓会事務所
- 三 出席者 文理・人文学部同窓会 二名

- 浜松工業会 一名
- 教育学部同窓会 二名
- 農学部同窓会 四名
- 理学部同窓会 一名

主な発言

・きっかけが五十周年記念事業の受皿としての連携で始まったにしても、将来とも手をつないでゆくことはよいことである。

う意識が強いが、県外では、静岡大学出身という認識があり、例えば浜松工業会沖繩支部では、全学部出身者で同窓会を開いている。そういう所では、各同窓会が連携していることは、心強いことである。

平成八年四月から理学部と大学院の組織が大きく変わりました。学科再編成が行われ、大学院理工学研究科が新しく発足し博士課程ができたのです。静岡大学は一九九九年で創立満五十年を迎えます。一九四九年(二十四年)六月一日新制大学として発足し、一九六五年(昭和四十年)、それまでの文理学部から理学部・人文学部への改組と教養部誕生以来の大規模な組織の再編成となりました。

えなければなりません。そのような時勢の中で静岡大学は、専門教育と共通教育の融合を目指しながら、一昨年、平成七年九月末をもって教養部廃止をいたしました。そして、共通の教養教育は四年一貫教育の下で行われることになり、そして、旧教養部の文系の先生を中心とした「情報学部」が、

五十二年(一九七六年)、二年遅れて後発の地球科学科にも修士課程ができ、以後一九九六年までに五二七名の修士課程を終えた学生が巣立っております。

平成の理学部大改革

静岡大学大学院 理工学研究科博士課程発足

理学部生物地球環境科学科 和田秀樹

このように、大学全体も大きく変わりましたが、理学部も組織替えをして教育研究内容も充実することを目指しました。その充実の大きな目標は、大学院博士課程を新設することでした。理学部の大学院理工学研究科修士課程ができたのが昭和

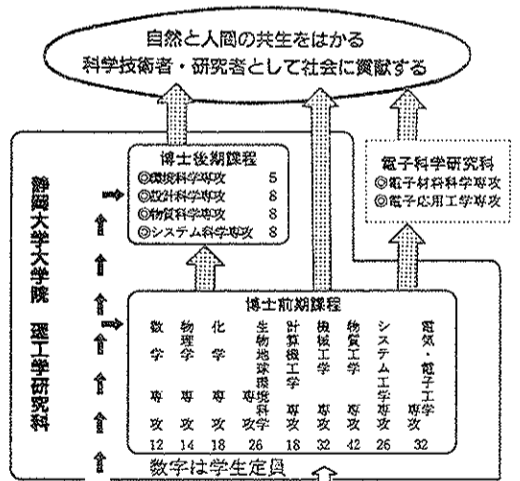
学五十周年という節目を迎えようとしており、同窓会のお力添えを得ながらさまざまな記念事業を計画致しております。同窓会員の皆様のますますの御活躍を祈念するとともに、母校に対するご支援もお願い申し上げます。

このように、大学全体も大きく変わりましたが、理学部も組織替えをして教育研究内容も充実することを

理学部は、専門教育と共通教育の融合を目指しながら、一昨年、平成七年九月末をもって教養部廃止をいたしました。そして、共通の教養教育は四年一貫教育の下で行われることになり、そして、旧教養部の文系の先生を中心とした「情報学部」が、

理学部は、専門教育と共通教育の融合を目指しながら、一昨年、平成七年九月末をもって教養部廃止をいたしました。そして、共通の教養教育は四年一貫教育の下で行われることになり、そして、旧教養部の文系の先生を中心とした「情報学部」が、

理工学研究科の組織構成



さて、静岡大変動は、大学院理工学研究科博士課程を作るための理学部学科内再編、学部内再編にいたり、古い殻は脱ぎ捨てがたく、慣性の法則は不滅法則かと思われましたが、生物学科と地球科学科は新しい学科として、生物地球環境科学 (裏面へ続く)

(表面より続き)
科に看板を変え、学生定員二十名増の九十名という大所帯となることに決定しました。学科内も大講座制に改まり、新学科は、地球物質科学講座、生物地球環境学講座、生物機能科学講座の三大講座となり、数学、物理、化学科は、各二大講座制になりました。このようにして、一九九六年四月から理学研究科の代わりに理工学研究科博士課程前期と後期になり、前期課程(修士課程)は、理学部の学科名と同じ四専攻と工学部の五専攻を合わせ九専攻、また、後期課程(博士課程)は工学部と融合した教育体制をと

り、環境科学、設計科学、物理科学、システム科学という四つの専攻になりました。通常、理学部と工学部の大学院が合体する場合、工学部主導型の大学院に理学部が混じり込むような組織が多いのですが、工学部と理学部が対等に融合型の大学院を作ることができたのは、静岡大学の特徴といえます。ここに組織として、完成した形になりましたので、これからは、中身、つまりどのような博士を世に送り出すかでの成功が決まります。今、どこの世界を見ても望むべき人材が不足しているように思えます。今後、学生の持ち味を引き出し、社会を混乱させないでリードして行く人材教育を目指したいと思えます。先に述べました創立五十周年の記念事業も控えておりますので、同窓会を通じて卒業生の多くの情報交換と活発な活動のご協力をお願いしたいと思います。(第三回卒)

職場紹介

新日本気象海洋株式会社
三島京子

私が卒業以来七年間勤めている当社は環境調査の総合コンサルタントで、主に海域や陸水域を中心とした環境に関する調査・解析を行っています。会社の業務全体を説明していると長くなるので、今回は私の所属する生物部門の仕事についてご紹介したいと思います。私の所属する部門では、魚やプランクトン、海藻、底泥中の生物など、海や河川の水生生物の生息状況を調査したり、解析を行ったっています。学生時代は有孔虫の生態を卒業テーマにしていましたが、その他の生物に関する知識は入社当時、はつきりいって皆無に近い状態でした。生物部門に入った新人がまず覚えることは、大抵の場合、調査で採集された生物の種の同定です。有孔虫以外ほとんど見たこともなかった私は、顕微鏡でゴカイをみては「わあ、目が四つある!」、小さなエビの仲間のお尻をピンセットでつまみ、「ひや〜、煮が出た!」などと素人丸だしの発言をしては職場の先輩達を不安にさせていましたが、二、三年も続けていると勘も養われ、機械のようにてきぱきと作業を進めることができようになるから慣れというものは凄いです。

今ほど同定の仕事を離れ、主に調査結果をまとめて報告書を作る仕事をしていきます。ご承知のように、環境問題に対する意識は近年世界的に高まっており、当社のようなコンサルタント会社に求められる技術も非常に多様化、専門化してきています。そのため、日頃の勉強は欠かすことができないと痛感する今日この頃ですが、その分やりがいを感じることもできる職場と言えるのかもしれない。(第十二回卒)

数学科 青山 究

どうもです、一九七九入一九八三卒一九八六修了と七年間も静岡大学にお世話になった青山ついでいます。その後九州大学を二年で中退して鹿児島大学理学部数学科に就職、現在に至ります。「近況報告を書け」ということなので少々。長い会議などが無い限り、毎日十時間前後コンピュータの前に座っています。ネットニュースや電子メールを飲み書きしたり、書類を書いたり、(こういう)雑文を書いたり、学内向け各種原稿を書いたり、講義の準備をしたり、(雑用)プログラムを作ったり、学内のネットワークワークとirchhatで情報交換(おしゃべり)したり、学部のネットワーク管理者としての雑用をしたり、なんでも座ったままやられてしまいます。無理なのは食事くらいかな。だから、よく食べ損ねるわけだ。正面上にワークステーション、右手にマック、左手にDOSH-V、背後に(ほぼ)引退したPC98と、コンピュータに囲まれて電磁波で現実の体を蝕まれながら、バーチャルな日々を送っています。え?ぢやあ、いったい、いつ専門の勉強をしているのか?そーいえば、忙しくて最近やめてないなあ。(第十五回卒)

物理科 榎田年也

北海道から出てきて静岡へ入った時、最初に聞かされたのは、静岡は隠居の地、長く住んでいるとボケるよ、ということだった。静大を卒業し、地元の会社へ入ったが、九年ほどで転職し、今は福島県のいわき市にいます。ここは自称「東北の湘南」で、要するに静岡と同じ温暖な地で、夏は涼しく、冬もめったに雪が降らない(東北なのに)。結局、これまでの人生の半分以上を隠居生活しているようなものである。

化学科 馬場(後藤) 洋子

昨年(平成八年)五月二十五日静岡駅前の日興会館において、有機化学講座の奥村保明先生の退官記念祝賀会が盛大に行われ、出席させていただきました。最初出席を迷っていましたが、桜井先生から丁寧な発起人依頼の(形ばかりで何のお役にもたしませんでしたが)お電話をいただいたことで、出席することに致

生物学科 井本美香

静大に移り住んで一年

同窓生の窓

無題

きくを地で行っている。学生時代の蓄積が少しでも役に立っているのは英語くらいなものである。「物理」を離れてみると(何も物理に限ったわけではないが)また全然違った世界があるのに気がつく。物理を引きずって生きるか、早めに見切りをつけるか、それも生き方のひとつか、それもない。新聞の科学記事を見ることができるようになるには、あと何年かかることやら。(第三回卒)

平成7年度静岡大学理学部同窓会会計報告 (～H. 8. 3. 31)

収入の部	円
前年度よりの繰越	3,308,595
終身会費(新入生170件)	1,700,000
終身会費(卒業生219件)	2,179,000
名簿代	490,000
受取り利息	9,845
計	7,687,440
支出の部	
印刷費	710,634
通信費	382,255
会議費、事務用品費、払込手数料等	452,099
備品代(名簿整理用PC)	1,188,250
総会費	0
積立金(特別会計)	2,000,000
計	4,733,238
差引残高	2,954,202

以上報告致します。平成8年4月1日 会計担当理事 浅野安人、杉本寿久、金子正純
監査の結果、報告の通り相違ありません。監査 佐藤洋一、松山初男

平成7年度静岡大学理学部同窓会特別会計報告 (～H. 8. 3. 31)

収入の部	円
前年度よりの繰越	6,678,024
今年度末繰入金	2,000,000
受取り利息	74,248
計	8,752,272
支出の部	
特別支出	0
計	0
差引残高	8,752,272

以上報告致します。平成8年3月31日 会計担当理事 浅野安人、杉本寿久、金子正純
監査の結果、報告の通り相違ありません。監査 佐藤洋一、松山初男

事務局から

会報十二号で、静岡大学創立五十周年のことについてお知らせしました。「記念誌の予約販売は同窓会で予約注文を取ることになるかと思いましたが、その節には、よろしくお願いたします。」と、書きましたが、その後、情勢の変化がありました。静岡大学の同窓会には、七つの組織があります。即ち「理学部同窓会」「文理学部同窓会」「教育学部同窓会」「工学部同窓会」「農学部同窓会」「情報学部同窓会」「短期大学部同窓会」です。この七つの同窓会が、緩やかな連合体を組織して、資金援助も含めて、静岡大学創立五十周年の記念事業実施に協力していこうということになりました。寄付のお願いをすることになるかと思いましたが、その節にも、よろしくお願いたします。

会報も、十三号になりました。編集は、もっぱら、竹下君(物理二回卒)、石渡君(化学三回卒)、佐伯君(地球科学十四回卒)に頼っています。内容を豊富にするために、会員からの投稿を期待します。平成五年度から、同窓会費が終身会費一万円となっています。郵便振替用紙は事務的複雑さを避けるために全員に郵送しておりますが、会費・寄付等が一万円以上納めていただいた方からは、再度会費をいただくことは思っておりませんので、御理解ください。野口和廣

無題